

主体的に学ぶ楠西っ子の育成

－子どもが中心となる学習を通して－

(1) 背景

学習指導要領では、児童生徒に目指す資質・能力を育む「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で、授業改善を進めていくことなどが明示されている。各学校においては、これらの考え方を踏まえて、生涯にわたって能動的に学び続ける児童を育成することが求められている。

令和5年度名古屋市立小中学校指導方針では学校教育の努力目標として、「主体的・対話的で深い学びの視点からの**授業改善の推進**」と「自他のよさに気づき、自分らしく生きることのできる子どもの育成」が定められている。また、**市教育目標では「ともに学び 自分らしく生きる」**とされ、子どもたちが学校という一社会を生きる中で、自分のよさや可能性に気付くとともに、**自分で課題を見つけて学習を進めたり、多様な立場の人と協働しながら新たな価値を生み出したりできる資質・能力を育む学校教育を行う**ことが求められている。

(2) 昨年度までの学校努力点の取組と本校児童の実態

本校では、平成29年度・30年度に「対話を通して学びを深めることのできる子どもの育成」、令和元年・2年度に「新しいことや苦手なことに挑戦しようとする子どもの育成」を研究主題として、学校努力点の取組を行ってきた。児童は、対話的な学びの中で新たな考えに気付いたり、協働的に縦割り活動に取り組む中で他者との関わりに自信をもったりすることができるようになった。また、令和3年・4年度には、「主体的に学ぶ楠西っ子の育成」を研究主題にし、探究的・協働的な学習の中でPDCAサイクルを児童が回すことができるようになるための授業実践に取り組んできた。児童が主体的に学習に取り組めるような授業改善を行ってきたことで、児童は**学習課題に対して**自分がどう学習を進めていくべきなのかを試行錯誤しながら授業に取り組むことができるようになってきた。

その一方で、**学習課題を設定する場面**では、教師主導の場面が多く、子どもが中心となり、主体的に学ぶ児童の育成においては、まだまだ改善の必要がある。

(3) 「主体的に学ぶ楠西っ子」の育成のために

本年度目指す「主体的に学ぶ」児童の姿とは、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた下記2つの姿である。

- ① **粘り強い（自ら課題を発見し、進んで、粘り強く）取組を行おうとしている姿**
- ② **自らの学習を調整しようとする（目標達成に向けて、学習計画を立て、自身の学習を振り返りながら取り組む）姿**

授業中に何度も挙手をして発言したり、ノートいっぱい自分の考えを記述したりする姿ではない。

今年度は、各教科の学習において、**教師主導の学習から児童主導の学習へと授業改善**を図る中で、上記①②の姿を目指し、主体的に学ぶ楠西っ子を育てていく。

また、「ともに学び」の観点から、縦割り活動の中で、**異学年での協働学習**（ワイワイスタディ）にも取り組んでいく。ワイワイスタディでも、児童主導で学習課題を設定し、学習計画を立て、学習を振り返りながら、目標達成に向けて取り組む中で、主体的に学ぶ楠西っ子を育てていく。